



水ときらめき紀の川館に 団体の来館者がありました

流水調整課

H30.01.19

貝塚市沢町会（大阪府）の皆様が、防災研修のため紀の川大堰の水ときらめき紀の川館に見学に来られ、当事務所から流水調整課長他1名の職員が対応し、紀の川大堰の概要説明、館内外の施設見学案内をしました。

館内見学の後、1月にしては暖かい晴天のもと、魚道を見学して、川の生物のために考え抜かれた様々な工夫に驚かされていました。

見学時間が1時間弱と短めでしたので、すこし駆け足でのご案内となりましたが、全ての場所を見ることができ、とても満足されたご様子でした。

団体見学概要

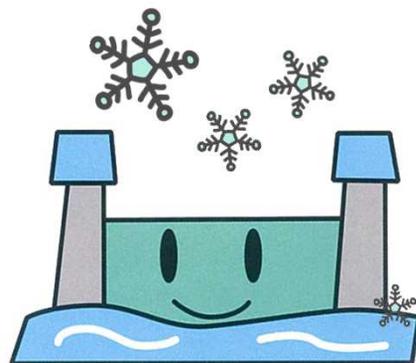
日 時： 平成30年1月17日（木）

9:00 ~ 9:50

会 場： 水ときらめき紀の川館

参加人数： 23名

団体名： 貝塚市沢町会(大阪府)



1. 紀の川大堰概要説明

流水調整課長がスライドを用いて、紀の川の概要や、紀の川大堰の仕組み・役割などを説明しました。

紀の川の歴史のお話しでは、歴史用語にうなづきながら静かに聞かれ、魚道についての説明時は、質問や疑問なども飛び交い、熱心に話を聞かれている姿が印象的でした。



2.館内の見学



1階展示ルーム

←和歌山にゆかりのある方もおられ、紀の川の全景を収めた床面の航空写真を見ながら、懐かしく目で追って話されていました。

紀の川の源流である「大台ヶ原」についての展示を読まれている様子。→



展望デッキでは、空と川と紀の川大堰が一体となった美しい景色を見ていただき、大堰をバックに記念撮影をされました。



2階操作室内をガラス越しに見学。紀の川大堰の司令塔です。

3.館外の見学



少し歩いていただき、魚道観察室へ向かいます。



階段式魚道とデニール付きバーチカルスロット式魚道を上から見ている様子。

構造の違いに興味を持たれていました。

質問：「台湾ヒライソモドキ」ってどんなカニ？

台湾ヒライソモドキは、汽水域に生息するハサミにふさふさを持った希少種のカニで、紀の川大堰建設当時の平成10～13年、環境保全のひとつとして生態調査・移植が行われました。

その頃は、分布が確認されている中で(台湾から大阪湾)和歌山県紀の川が最北限だと考えられていましたが、平成21年に神奈川県で行った調査により、相模川の河口域でも発見され、現在はそちらが台湾ヒライソモドキの分布の東限記録となっています。

また、名前の由来ですが、「台湾からの外来種」というわけではなく、生息地域が関係しているのではないかと思います。他にも「台湾～」や「～モドキ」という名のカニがいるようです。



平成12年の第1回移植時の台湾ヒライソモドキ(オス)。移植は4回行われています。